

フランスにおける景観保存政策の展開と現状 —パリ・マレ地区の考察を中心に

寺 阪 昭 信

1 はじめに

近年、日本においても歴史的な集落や街並みの保存が都市の活性をはかり、観光客を呼び込めるという期待をこめて重要視されるようになってきた。文化財保護法の改正により1975年に重要伝統的建造物群保存地区が指定され、さらに2004年12月に景観法が施行されて個別の文化財から広がりを持つ景観の保護に向かうようになってきた。本論では歴史的建造物、文化遺産の保存・修復の運動の先進国であるフランスの事情を、都市における文化政策の一環として考察する機会があり、従来余り知られることのなかったこの課題について紹介し、¹⁾ その典型的事例の一つであるパリ市の歴史的街並みの保存の経緯と現状について、及び最初に保全地区として指定された都心東部の3・4区にまたがるセーヌ右岸マレ地区の実態を報告することを目的としている。

首都はその国を象徴するものであり、そのために都市の美観を形成し、維持するために優れた都市計画を実行する努力をしてきた。特にフランスはその意識が強く見られ、一極集中が顕著であるゆえにパリの占める地位は特別である。首都の美化について歴代フランス国王が努力してきたものを共和国以降も引きついできた。政治、経済とともに文化面での一流国として世界をリードしてきた自負があり、国のステータスを保つことを重要視してきた。パリは芸術・文化の都市として世界で最も知られてお

り、ルーブル美術館、エッフェル塔など多くの観光資源を有しており、それらを含めて世界各地から多数の観光客を呼び込んでいる。19世紀中葉のオスマンによる再開発にもとづいて現在の街の骨組みが形成されて美しく整った町を作り上げてきている。一方ではより古い建物と町並みを残しつつ、他方では斬新な再開発が続いている。その間の調和が取れていることがこの都市の魅力を維持している源となっているように思われる。

ヨーロッパの諸都市はEU統合以降、国境を超えて都市レベルにおけるさまざまな分野において都市間競争が激化してきた。そのような状況下では文化政策が都市の特色を打ち出せる重要な部門となっている。ツーリズムもその一環に組み込まれて多数の人をひきつけるための一つの武器ともなっている。

パリの大改造計画（grand projet）による都市再開発事業は国家事業としてミッテラン大統領時代にパリの西に隣接するナンテール地区のグラン・アルシュ建設など、革命200年記念事業を中心にポンピドゥー・センター、オルセー美術館、ルーブル宮の改装という多くの記念事業的な大建造物を建てたり改装したりして存在感を高める努力が行われて都市改造がなされてきた（表1）。ド・ゴール時代にはヴェルサイユ宮殿の整備と都心の中央市場レ・アルの南郊ランジスへの移転しか手をつけなかったが、70年代になってポンピドゥー時代に現代美術を中心とした多目的の巨大な建物、ポンピドゥー・

センターを都心に建設して以降、歴代の大統領は記念碑的な大建設、再開発を国家主導のもとで行ってきた。その頂点がミッテランによる1989年のフランス革命200年に際した大事業である。表に見られるように20の事業のうち、18までミッテランが絡んでいる。残念ながら日本人は入り込めなかったが、多数の著名な建築家が選ばれて、話題性のある建物が出来てきた。

パリの大事業計画による斬新な建築物による現代都市の活性化と歴史的地区の保存運動、すなわち17・18世紀以来の歴史的建造物(monument historique)が多く残っているマレ地区が1965年最初の保存地区に指定されるが、その修復美化とが車の両輪となって都市政策が推し進められている。その後、1971年にはセーヌ左岸7区のアンヴァリッド、オルセー美術館、国民議会議場、首相官邸などを含む135haの地区も保全地区に指定された。これらの大事業が国

家主導によるものではあるし、パリ市の政策とは必ずしも整合性がとれているとはかぎらないが、パリにとっての財産であり美化、活性につながっていることには変わりない。

歴史的建造物としてリストの載ったものはパリ市内に全部で1,900件(2002年現在)にのぼる歴史都市である。ちなみにやや古い数値であるが、1994年におけるフランス全土、海外領も含む、歴史的建造物は38,235、そのうち4.3%に当たる1,654がパリ市にあった。その後もこの比率に大きな変化はないと仮定するとパリへの様々な活動の一極集中ぶりからみてこの数値は低く見える。²⁾

2 フランスにおける文化財保護と町並み保存の歴史

文化財の保全は国家と地方自治体とが共同で当たる。早くもフランス革命後の19世紀初頭に

表1 パリの大統領主導による大事業

名 称	時 期	主 導 者	建 築 家
ポンピドゥー・センター	1970-77	ポンピドゥー	R.Piano, R.Rogers
科学・産業都市	1979-86	ジスカールデスタン	A.Fainsilber
オルセー美術館	1979-86	ポンピドゥー ジスカールデスタン ミッテラン	ACT Architecture(Colboc, Bardon, Philippon)G.Aulenti
アラブ世界研究所	1983-87	ジスカールデスタン	J.Nouvel, P.Soria, G.Lezénés
デファンス・グランアルシュ	1983-89	ミッテラン	J.O.von Spreckelsen, E.Reizel, P.Andreu
ベルシー・大蔵省	1984-88	ミッテラン	P.Chemetov, B.Huidobro, L.Arretche
大ルーブル美術館	1983-93	ミッテラン	I.M.Pei, P.Duval, G.Nicot, M.Macary, J.-M.Wilmot
チュイルリー・カルーセル公園	1992-97	ミッテラン / ラング	J.Wirtz, P.Cribier, L.Benech, F.Roubaud
ジェオイド	1983-85	ミッテラン	G.Chamayou
プラネタリウム	1982-84	ミッテラン	P.Chaix, J.-P.Morel
ラ・ヴィレット公園	1983-92	ミッテラン	B.Tschumi
音楽都市	1985-95	ミッテラン	C. de Portzampac
バスチーユ・オペラ座	1985-89	ミッテラン	C.Ott
アンヴァリッドのドーム	1988-89	ミッテラン	J.-C.Rochette
国立図書館	1991-96	ミッテラン	D.Perrault
自然博物館大ギャラリー	1991-94	ミッテラン / ラング	P.Chemetov, B.Huidobro
コレージュ・ド・フランス	1993-98	ミッテラン / ラング	B.Huet, J.-M.Wilmotte
国立科学技術博物館	1998-99	ミッテラン / ラング	A.Bruno, F.Deslaugries
ルーブル美術館支所ブランリー	1999-2000	シラク	J.-M.Wilmotte
河岸			
ブランリー河岸美術館	2001-04	シラク	J.Nouvel, G.Clément

文化財の保全という動きが出てきて、保存すべきもののリストを作り出した。最初の動きは国立公文書館の設立である。建造物はHotel de Rohan-Soubise（現国立公文書館、フランス歴史博物館）に始まる。1887年5月30日の法律は歴史的建造物保全に関する最初の文書である。1913年12月31日歴史的建造物保存法は歴史的、芸術的観点からその保全が公益になる建造物を歴史的文化財として指定する事を定めた。その背景には1905年の国家と教会との分離に伴う、教会建築の保護がある（Bady p.13）。その対象を重要度に応じて指定（classement）と登録（inscription）の2つのレベルに分類した。³⁾

1930年5月2日の法律により保全の対象を歴史的建造物のみでなく、自然景勝地にも拡大した。1943年にはさらに歴史的建造物の周辺500mの保全に範囲を広げた。初めての点から面への展開である。同時可視性、すなわち保全対象の建物を離れて見る場合とその建物から周辺を見る場合の規制範囲を500mに広げて、保全する建物を単独に孤立させないようにした。

1962年8月4日のマルロー法は歴史的建造物（不動産）の保全修復を周辺部に広げる。中央審議会の設置による保全プランの承認を経て1996年までに88地区まで増える。ドゴール時代の文化行政組織としてアンドレ・マルローが文化省を創設して、芸術、文化に関する様々な分野での改革が行われた。その大臣を10年間勤める。その一つとして1962年のマルロー法の制定による文化財の保全（点から面的に広げる）が大きな功績として名前を残している。マルローの仕事がいかに高く評価されているかは、1976年の死後20年という早さでパンテオンに祭られていることからわかる。ドゴールとともに第2次大戦中のレジスタンスを戦い抜いたことが信頼を高めたのであろうが、文学者として、それ以上に政治家としてフランスの文化を発展させた指導者としての面を評価しなければならない。

1977年のPOS（土地利用計画）の成立が都市の景観保全に効果があった。区域全体の土地利

用規制ができるようになった。

地方分権の動きとしては1983年1月7日にZPPAU（les zones de protection du patrimoine architectural et urbain）都市建築的文化財保全地区の制度が出来た。1999年までに277地区において、500m規制が地域の実情に応じて調整できるようになる。その後さらに1993年ZPPAUP（+ paysager）都市建築的景観的文化財保全地区に変更され保全の枠組みが強化された。90年代末までに79都市が保全計画を作成した。

保全地区の設定に当たっては1984年2月27日の政令により創られたフランス建造物監視建築家協会（Architectes des Batiments de France）による承認を受けなければならない。これは都市計画と歴史的記念物の修復と文化財の法制化を実施する集団である。

指定された歴史的建造物は文化省の管轄下に置かれ、取り壊し、移動、修復、改修については文化省の許可なしには出来ない。ABFの賛同を得ない限り「指定された建物」の見える範囲（半径500m以内）に無許可で景観の変更ないし新規の建物は建てられない。所有者に対する修復工事費用の補助は30～50%。この費用は国、レジョン、コミューンがそれぞれ負担している。

「登録された建物」は保護の程度が指定された建物より低い。歴史的、芸術的に保全することが望ましいものについて記載しておく。登録は所有者側に責任がある。修復や改修には文化省に届出る。工事費用の補助率は10～20%である。

3 パリ都市空間の中のマレ地区

3・1 マレ地区の歴史と現状

マレ地区はセーヌ川右岸のパリ都心の東側、3・4区にまたがる。南はセーヌ川で限られ、市役所を南西の角と南東角のバスチユ広場と北のレピュブリック広場で囲んだ三角形の範囲の126haの広さである。もともとは低湿地であった地域が開発されてきた。北にはタンブル騎士

団の居住区があり、東の外れにはバスチーユの監獄、東側にはシャルルV世の城壁があった。絵図として最も古く描かれたパリはフランソワI世時代1535年頃のla Gouscheのものでそれらが記されている。

この地区は16世紀以来の貴族らの居住する地域として開発されてきた。17世紀はじめに王の広場、現在のヴォージュ広場ができてから発展し、上質な建物＝館(hôtel)が多く建てられた。その後上流階級は市域の西部に流出してゆき、さらにフランス革命以後は衰退していった。そのために19世紀後半のオスマンによる大改造にも取り残されてそのまま手付かずであった。パリ市の美化に無視されたといえよう。その結果、職人や労働者の居住地区となり移住民も増えて市内で最も高い人口密度を持つ衰退地区となり、古くて設備の悪い建物のために衛生面での問題の多い地区となった。

ここはルーブル宮、市役所、旧中央市場を都心とするすぐ東側の旧い住宅地区であって、さらに市域の外部に当たる住宅地区との間のパリ市の中の漸移地帯といえる⁴⁾。商業、手工業、卸売業が入り込み、ユダヤ人街や東欧系、マグレブ系、さらにはアジア系の住民も多く住んでいる(北西部地区)。かつての大邸宅も多数残ってはいるが、次第に荒廃し、解体されるものも増えていった。そういう傾向に歯止めがかかったのがマルロー法の制定であり、1964年12月21日省令に基づく保全地区指定である。市による土地・建物の買収、建物の修復・保存にむかった。現在では街路の整備とともに若者が増えて活気づいてきた。

周辺を囲む大通りの下をメトロが走っていて、11の駅があるが、この地区内にはリヴォリ通とサン・タントワ通の下を通る1号線のサン・ポール駅しかない。ここに来るための交通の便はあるが、域内はかならずしも便利とはいえない。

西側は旧中央市場の移転再開発によるレ・アル地区の商業空間と接し、また大きな集客力のあるポンピドゥーセンターがある。さらに市役

所、それに接して百貨店(BHV)が存在する西部地区では人々の往来を多くして、普通のにぎやかな街並みとなっている。しかし、次第に東に入ってくると古い建物の増加とともに様相が変わって静かになる。後に街路の分析をすることで分るが、道幅の広い長い直線道路が少ないために道路の見通しが悪く、変化に富んだ景観が現れる。商店が増えてきたこともこの地区の賑わいと魅力を増すのに役立っている。

この地区の特色を考える上で、建物としても目立つ存在なので、中学校(collège)と高等学校(lycée)を図3のなかにそれぞれ7校あり、記号cとdで入れた。そのうち4校は歴史的建造物に記載されている建物を使用している。パリ全体ではそれぞれ179と175あるので、数としては多くない。なお図には示さなかったが、小学校は市に466あるうちの14が存在する。

宗教施設については初期から歴史的建造物に記載されてきた。全部で6ヵ所あるが常時内部を開放しているのはSt. Paul, St. Gervaisの2つのみで、他の教会はお祈りの時間しか開いていない。

ユダヤ人地区についてはロジエ通におけるヘブライ文字表示の店舗(食材・書籍など)とレストラン、軽食・テイクアウト店が多く見られる。シナゴーク(ユダヤ教会)は2つあるが、そのほか外部からは目立たないが、彼らの学校や集会施設がいくつか存在する。

ツーリズム空間としてみるとマレは周囲をポンピドゥーセンター、ノートルダム教会があるシテ島、サンルイ島、バスチーユ広場に近接する存在である。国王の軸の整備の東側に延長したラインである、リヴォリ通りが東西に貫いている。バスチーユ広場の南東部に位置するオペラバスチーユが1989年に開設されてこの地域を変えた。バスチーユ広場—サン・タントワン通—ヴォージュ広場—フラン・ブルジョワ通—カルナヴァール博物館—ポンピドゥーセンターというのがツーリストの主要道路であろう。このような保存修復の結果この街は明るくきれいになり、近世的な景観の維持と現代への調和が

若者へ強くアピールしている。とくにフラン・ブルジョワ通の商店街は若者向きになってきている。ブティック、小間物、宝飾、骨董・美術品など製造小売などの若者向きの店が多い。こぎれいな飲食店の増加によりツーリストが多く訪れて賑わってきている。ガイドブックのギドブルーにおいてもこの地区を最高レベル（3星）で評価していて、この登録リスト以外の建物についても観光対象として評価している。日本のガイドブックにも詳しく紹介されるようになってきた。宿泊施設は少ない。

この地区の中心としてランドマークとなりノードともなっているのがヴォージュ広場である。この存在がツーリズムにも大きく影響する。ここはパリを代表する歴史的にも最も古い広場であるが、1600年代初頭に建てられた建物に囲まれていながら、115mの正方形の広い面積に芝生があり、12m道路との間には樹木があるために開放的な空間を作り出している。同じ17世紀に作られたパリのヴァンドーム広場（1区）やイタリア諸都市の代表的な広場が石畳で閉鎖的であるのに対して、柔らかな空間を創り出し、憩いの場として多くの人をひきつけている。もとはロワイヤルの広場と呼ばれ、革命後の現在の名称に変わった。中央にルイ13世の騎馬像があり、それを取り囲む4つの噴水がシンメトリーに配置されている。荒廃した王宮トゥールネル館をアンリ4世が高級住宅地に整備したのが始まりである。レンガと石の2階建てに高い急斜面の屋根がのるルネッサンス様式の建物に統一されている。バルコニーの装飾には幾種類もの模様が使われている。1階部分には回廊があり、北側には絵画・骨董関係の店が並ぶ。幾つかのカフェ・レストランはいつも賑わっている。北側がパ・デュ・ラ・ミュール通によって東西につながり、南北はビラーグ通とベアルン通がアーケードを通じて外部に開かれている。

3・2 歴史的建造物の立地

文化財の分布をみると数の多さと密度及び

面的広がりには他に例を見ない規模である（表2）。種類の豊かさは16世紀の大邸宅から20世紀の商業建築まで、さまざまな時代の建物が混在する中で調和を保っていることに価値がある。

この地区の歴史的記念物は指定67と登録122の合せて189に達する（表3）。すでにマルロー法以前に指定が46、登録が68と現在の保存建物リストの60%になっていた。その内訳を見ると指定は教会などの宗教施設、館・大邸宅（hôtel）が初期から、商業施設は比較的新しく1984年に大部分指定された。大邸宅と住宅との区別は明確ではないが、前者が60%、後者を加えると80%に達する。ほとんどが個人の住宅に由来するものであることがはっきりする。その他には噴水、学校などの公共的建物、フィリップ・オーギュストの城壁跡などが含まれる。建物によっては指定と登録と別々の年にリストアップされているものがあるが、ここでは最初の記載について分類して、重複分は計算に入っていない。記載される内容は建物の外観部分と内装とがある。

パリ市内における歴史的建造物の分布を見ると図1（69p.）のようになる。指定と登録の割合をあわせて示した。全部で1,240あり、区別に見ると6区に最も多く170、ついで、1区の167、4区の159、7区の117と続き、3、9区までの都心区域には100以上ある。上位3区への集中は40%、5区で60%近くに達する。外周部の10区から20区までは16%にしか過ぎない。そして4区が最も指定建造物の割合が高い。

表3の時代区分は1913年の歴史的建造物保存法が成立した1913年を一つの区切りとし、それからマルロー法までの期間、その後はポンピドゥー、ジスカルデスタン、ミッテラン、シラクという大統領の交代に合わせて区分した。これを見るとミッテランの時代に新たにリストに加えられたものが多く、近年には少なくなっている。大邸宅はマルロー法以前にすでに多くの指定クラスが記載されていた。

最初に文化財として指定された建物は1846年

表2 マレの歴史的建造物

番号	名 称	所在地	指定年
1	Hôtel de Ville	Pl. Hotel de Ville	I 1975
2	Couvent/Egl. Carmes Billettes	22/24 r. Archives	C 1862
3	Maison Jaques Coeur	38/42 r. Archives	C 1977
4	Couvent des Pères de la Merci	45 r. Archives	C 1984
5	H. Guénégaud ou Pénaulier	60 r. Archives/24.30 Quatre Fils	I 1962
6	H. de Montescot/Michel Simon	70 r. Archives	I 1964
7	H. de Villeflix	72 r. Archives	I 1928
8	H. Amelot du Chaillou/Tallard	78 r. Archives/12r.Pastarelle	I 1980
9	Chap. St. Julien des Enfants-Rouges	90 r. Archives	I 1925
10	Maison	9 r. Aubriot	I 1925
11	Maison(H.Mayrat)	11r. Barbette	I 1925
12	H. Le Marié d' Aubigny	15 r. Barbette	I 1961
13	Brasserie Bonfinger	3/7 Bastille	I 1989
14	Pavillon de la Reine/H. d'Epinoy	2 Béarn/2 Pl. Vosges	C 1920
15	Façades, jardin H. de Sagonne	21/23 Bd. Beaumarchais	C 1943
16	Immeuble (Hotel 16e)	7 r. Beautreillis	I 1963
17	H.Bergeret de Frouville et de La Haye	3/5 r. Beranger/2 r.de la Corderie	I 1987
18	Notre-Dame des Blancs-Manteaux	12 r. Blancs-Manteaux	C 1983
19	Immeuble du Credit Municipal	16 r. Blancs-Manteaux	I 1926
20	Immeuble	28 r. Brancs-Manteaux	I 1984
21	H. de la Grange Trianon	35 r. Brancs-Manteaux	I 1984
22	Immeuble	28 r. Bourg-Tibourg	I 1982
23	H. Le Lièvre de La Grange	4/6 r. Braque	I 1953
24	H. de Chaulnes	8 r.Braque	I 1925
25	H. Ficubet	2 bis Quai des Célestins	I 1928
26	Immeuble	42 Quai des Célestins	I 1957
27	H. Jean Bart/Passart	4 r. Chapon	I 1984
28	Lycée Charlemagne	14 r. Charlemagne /101 r. St. Antoine	C 1988
29	Maison	2 r. Charles V	I 1926
30	H. d'Aubray/Brinvilliers	12 r. Charles V	I 1960
31	H. Brévanes Cornuel	7 r. Charlot	I 1980
32	H. de Bérancourt/Garde	28 r.Charlot	I 1964
33	Marchés de Enfants Rouges	35.37 r. Chrlot/r. Bretagne	I 1982
34	H.de Sauroy(Pavillon)/Chamillart	58 r. Charlot/9 r.Normandie	I 1984
35	Maison (petit H. de Wenzel)	62 r. Charlot	I 1926
36	Immeuble	23 r. Ecouffes	I 1964
37	H. Brulart	25 r. Ecouffes	I 1965
38	H. Donon	8 r. Elzévir/9.r.Payenne	C 1977
39	H. de Sens	1 r. Figuier	C 1912
40	Petit Hotel de Fourcy/Charpantier	6 r. Fourcy	I 1928
41	Maison Renaissance	30 r. François Miron	C 1978
42	Maison La Barre de Carroy	42 r. François Miron	I 1964
43	H.d'Ourscamp/Marsande/maison d'Ours	44/46/48 r. François Miron	C 1966
44	H. de Beauvais	68 r. François Miron	C 1966
45	Boutique Bouçnat	80 r. François Miron	I 1984
46	H.Hénault de Cantobre	82 r. François Miron	I 1926
47	Magasin commerce Boulangerie	23 r. Frances Bourgeois	I 1984
48	H. Mortier/ de Sandreville	26 r. Frances Bourgeois	I 1981
49	Magasin commerce Boulangerie	29 r. Frances Bourgeois	I 1984
50	H. d'Alméras/Fourcy	30 r. Frances Bourgeois	C 1978
51	H. Jeanne d'Albret	31,31bis r. Frances Bourgeois	C 1889
52	H. de Tellier/Barbesla/Deniau de Fontenay	35,37 r. Frances-Bourgeois	I 1961
53	Maison Claustrier (H. de Fontenay)	56 r. Frances Bourgeois	I 1928
54	H. Rohan et de Soubise	60 r. Frances Bourgeois	C 1862
55	Mémorial du Martyr juif inconnu	17 r. Geoffroy l'Asnier	I 1992
56	Maison	22 r. Geoffroy l'Asnier	I 1928
57	H. Châlons-Luxembourg	26 r. Geoffroy l'Asnier	C 1977
58	H. d'Estrées /Façade du 18C	7 r. Gravilliers	I 1961
59	Fontaine Public des Haudriettes	1 r. Haudriettes	I 1925
60	Immeuble dit H. Bondville	4 r. Haudriettes	I 1961
61	Immeubles	10 r. Hospitalieres St. Gervais	I 1970
62	Maison	56 r. l'Hôtel de Ville	I 1925
63	Magasin commerce Boulangerie	62 r. l'Hôtel de Ville/2 r. Barres	I 1984
64	Immeuble	80 r. l'Hôtel de Ville	I 1956
65	Enceinte de Philippe Auguste	r. Jardins Saint-Paul	C 1889
66	H. d'Aumont	5/7 r. Jouy	C 1946
67	H. des Parlementaires de la Fronde	3 r. Lion	I 1961
68	H. Thuriot de la Rosière/Fieubet	10 r. Lion	C 1968
69	Tourelle d'angle	18 r. Lions/8r. St. Paul	I 1928
70	entrée du Metropolitain	5 r. Lobau	I 1978

71	Magasin commerce Boucherie/Charc..	4 r. Malher	I 1984
72	Magasin commerce Boulangerie	13 r. Malher/r. Rosiers	I 1984
73	Boutique	13 r. Michel le Comte	I 1984
74	Immeuble (Façade)	15 r. Michel le Comte	I 1961
75	Immeuble dit H. Beauburg(Façade)	17/19,r. Michel le Comte	I 1961
76	H. d'Hallwyll	28 r. Michel le Comte/17r. Montmonrancy	I 1976
77	Infirmierie des Minimes	12 r. Minimes	I 1925
78	H. de Vitry/Tonnerre	14 r. Minimes	I 1961
79	H. Thirioux de Lailly	5 r. Montmorency	I 1925
80	H. Berruyer/Canillac/Jassaud	4 r. Parc Royal	I 1962
81	H. de Vouvray/Orléans	6 r. Parc Royal	I 1961
82	H. de Vigny	10 r. Parc Royal	I 1928
83	H. de Croisilles	12 r. Parc Royal	I 1961
84	H. de Bonneval	14/16 r. Parc Royal	I 1961
85	Immeuble(H. Beautru de la Vieuville)	5 r. Pastourelle	I 1963
86	H. de Beautru(Portail)	6 r. Pastourelle	I 1963
87	H. Le Pelletier de Souzy/Tallemant	19,21 Pastourelle/76 r. Archieves	C 1982
88	Synagogue	10 r. Pavée	I 1989
89	Restes Prison de la Petit Force	22 r. Pavée	I 1935
90	H. Lamoignon/Angoulême	24 r. Pavée	C 1937
91	Temple de l'Humanité/Positivism	5. r. Payenne	I 1982
92	H. de Marle/du Noirmoutier	11 r. Payenne/10 Elzevir	I 1961
93	H. de Lude ou/de Châtillon	13 r. Payenne	I 1961
94	H. Libéral Bruant	1 r. Perle	C 1964
95	Fountain Jarentte	2 Impasse Poissonnerie	I 1925
96	Immeuble	6 r. Pont Louis Philippe	I 1984
97	Archieve National	7 r. Quatre Fils	C 1924
98	H. Gigault de Crisenoy/Aymeret	16 r. Quatre Fils	I 1928
99	H. Le Féron/Brabançois Façade	20 r. Quatre Fils/9 Sourdis	I 1961
100	H. Thirioux d'Arconville	22 r. Quatre Fils	I 1961
101	H.d'Epinay Immeuble (Portail)	23 r. Rosiers	I 1974
102	Tm,ple des Filles de la Visitation St. Marie	17 r. St. Antoine	C 1887
103	H. de Mayenne	21 r. St. Antoine/38,40r. Petit Muse	C 1974
104	H. Béthune-Sully	62 r. St. Antoine	C 1862
105	Magasin commerce Boutique	72 r. St. Antoine/2r. Turenne	I 1984
106	Egl. St. Paul et St. Louis	99 r. St. Antoine	C 1887
107	Maison (H. Séguier)	133 r. St. Antoine	I 1926
108	Egl. St. Gervais-St. Protas	Pl. St. Gervais	C 1862
109	H. Marchant	17 r. St. Gilles	I 1963
110	H. de Vaucel	22 r. St. Gilles	I 1925
111	H. Pasquier/Pottier du Blancmesnil	9 r. St. Merri	I 1964
112	Maison	11 r. St. Merri	I 1928
113	H. Le Rebours	12 r. St. Merri	I 1990
114	H. Raoul de la Faye(Ste Croix)	5 r. Ste. Croix de la Bretonnerie	I 1966
115	H. Bence(Sculptures, porte)	8 r. Saintonage	I 1926
116	Boulangerie	15 r. Saintonge/29 r. Poitou	I 1984
117	H. de Chavigny/Poulletier/Bouthillier	7,9 r. Sévigné	I 1988
118	Petit hotel Poulletier (vantaux)	13 r. Sévigné	I 1925
119	Hôtel Calnaulet	23 r. Sévigné	C 1846
120	H. Le Peletier et St. Fargeau	29 r. Sévigné/14 Payenne	C 1984
121	Fountain Popincourt	48 r. Sévigné	I 1961
122	Maison	25 r. Temple/2 St. Merri	I 1925
123	Maison Auberge de l'Aigle d'Or/Berlize/Th. Dejazot	41 r. Temple	I 1926
124	H. St. Aignan/Avaux/de Rochechouart	71/73/75 r. Temple	C 1988
125	H. de Vicq	77 r. Temple	I 1974
126	H. de Montmort/Montholon	79 r. Temple	I 1925
127	Immeuble	101,103 r. Temple	I 1964
128	Central Telephonique	106/108 r. Temple	I 1999
129	Ancien Café	150 r. Temple	I 1984
130	H. de Fontenay /Salé	5 r. Thorigny	C 1968
131	H. de Percy/Bercy/Pracontal	6/8/10 r. Thorigny	I 1964
132	H. de Ribault/Langres	21 r. Tournelles	C 1954
133	Synagogue	bis 21 r. Tournelles/14 Pl. Vosges	C 1987
134	H. Mansart de Sagonne et son Jardin	28 r. Tournelles	C 1943
135	H. de Melun	50 r. Tournelles	I 1961
136	Fountain Public dite de Joyeuse	41 r. Turenne	I 1927
137	H. de Gourgues/ Méréault	52,54 r. Turenne	I 1926
138	Immeuble Niche statue de la Vierge	58 r. Turenne	I 1928
139	Maison H. d'Ecquevilly/Grand Veneur//H. de Hesse	60,62 r. Turenne	I 1925
140	H. de Pologne	65 r. Turenne	I 1975
141	Boutique	67 r. Turenne	I 1925
142	Egl. St-Denis du St. Sacrement	70 r. Turenne	C 1908
143	Maison H. de Launay	76 r. Turenne	I 1928

144	Fountain Public Fontaine Bouchert	133 r. Turenne/70 r. Charlot	I 1975
145	Immeuble	63 r. Verrerie	I 1995
146	H. de Vibraye/Schömberg	15 r. Vieille du Temple	I 1964
147	Maison Varin (Façades, vantaux)	24 r. Vieille du Temple	I 1928
148	Maison	25 r. Vieille du Temple	I 1925
149	H. Gaudart (Vantaux porte, Porte)	36 r. Vieille du Temple	I 1925
150	Maison Le Tellier (Porte monumentale)	44 r. Vieille du Temple	I 1925
151	H. de Ambassadeurs de Holland(Amelot de Bisseuil)	47 r. Vieille du Temple	C 1924
152	H. Hérouet tour	54r. Vieille du Temple/42 Francs Bourg.	C 1908
153	Boutique	79 r. Vieille du Temple	I 1925
154	H.. Rohan-Strasbourg	87 r. Vieille du Temple	C 1900
155	H. Mégret de Sérilly	106 r. Vieille du Temple	I 1961
156	Espinay/de Hozier/d'Epernon	110 r. Vieille du Temple/9 r.Debelleyme	I 1982
157	Immeuble Ancien Théâtre	117 r. Vieille du Temple/6 r.Saintonage	I 1972
158	Maison (Guérard)	137 r. Vieille du Temple/1 r.Bretagne	I 1928
159	H. Petit Sully, orangerie	7/7 bis Pl. des Vosges	C 1953
160	Square Publique	Place des Vosges	C 1954
161	H. de Coulanges	1bis Pl. Vosges/11bis r. Birague	I 1967
162	Pavillon du Royal	1 Pl. Vosges	C 1956
163	H: de Phélypeaux	2bis Pl. Vosges/16 r. Birague	I 1956
164	H. Huguet de Sémonville	3 Pl. Vosges	C 1957
165	H: Regnouart	4 Pl. Vosges	C 1955
166	H: de Rotrou	5 Pl. Vosges	C 1955
167	H. Atnaud/Rohan-Guéméné	6 Pl. Vosges	C 1954
168	Mason Le Redde	8 Pl. Vosges	C 1954
169	H. Chaulnes	9 Pl. Vosges	C 1954
170	H. de Chatillon	10 Pl. Vosges	C 1958
171	H. de Villacerf	11 Pl. Vosges	C 1954
172	H: de Nouveau	12 Pl. Vosges	C 1954
173	Grand Hotel de Rohan	13 Pl. Vosges	C 1956
174	Petit Hotel de Rohan	15 Pl. Vosges	C 1955
175	H. de Leles	16 Pl. Vosges	C 1955
176	Chabannes/Flers	17 Pl. Vosges	C 1955
177	H. de Tessé	18 Pl. Vosges	C 1954
178	Maison du Grand Henry	19 Pl. Vosges	C 1954
179	H: de Fieubet	20 Pl. Vosges	C 1955
180	H: de Cardinal de Richelieu	21 Pl. Vosges	C 1958
181	Laffemas	22 Pl. Vosges	C 1955
182	H. de Bassompierre/Pavillon de la Reine	23 Pl. Vosges	C 1984
183	H: de St:Géran/Boufflers	24 Pl. Vosges	C 1956
184	H. de Sainctot	25 Pl. Vosges	C 1956
185	H. de Blérancourt	26 Pl. Vosges	C 1956
186	H. Epinoy	28 Pl. Vosges	C 1984
187	H: d'Epinoy/Pavillon de la Reine	30 Pl. Vosges	C 1954

注：C：記載 I：登録

資料：Inventaire des équipements public et privés à Paris (2003) の Les Monuments Historiques et les inscriptions à l'inventaire Supplémentaire.及び文化省の資料をもとに整理した。いくつかの書によると建物の名称、指定年などに違いが見られる。

表3 マレ地区の歴史的建造物：種類と指定年

	分類	1913 以前	1914 — 42	1943 — 61	1962 — 73	1974 — 80	1981 — 94	1995 —	合計
宗教施設	C	5	0	0	0	0	3	0	8
	I	0	2	0	0	0	2	0	4
大邸宅	C	8	4	28	4	4	4	0	52
	I	0	18	20	12	6	7	0	63
住宅	C	0	0	0	1	2	0	0	3
	I	0	17	5	6	0	3	1	32
商業施設	C	0	0	0	0	0	0	0	0
	I	0	2	0	0	0	12	0	14
その他	C	1	0	2	0	0	1	0	4
	I	0	3	1	0	3	1	1	9
合計	C	15	4	30	5	6	8	0	67
	I	0	42	26	18	9	25	2	122
総計		15	46	56	23	15	33	2	189

注：表1をもとに筆者作成 C：指定 I：登録

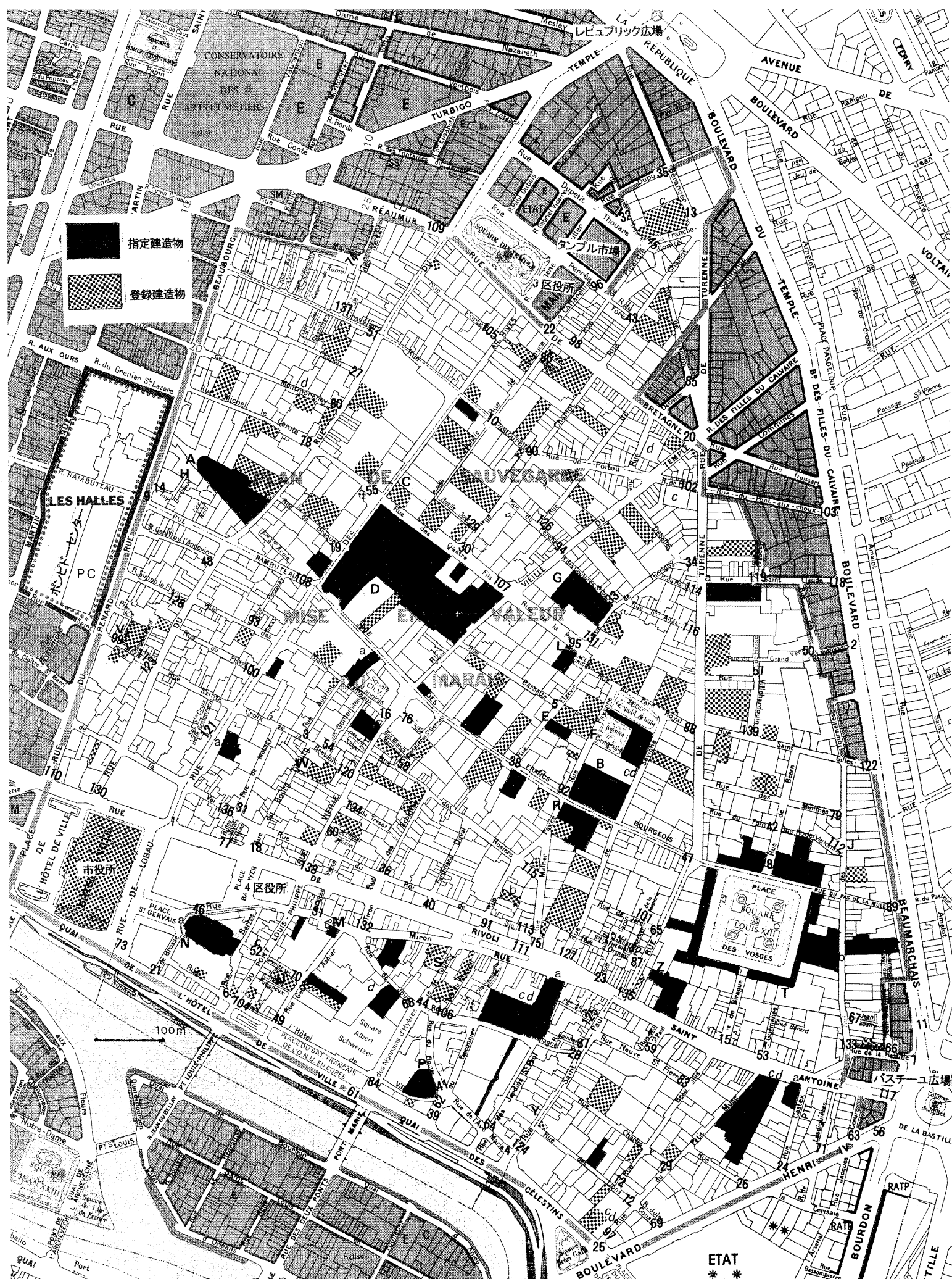


図2 マレ地区の歴史的建造物と道路

注：歴史的建造物は表1、黒が指定、網が登録の分類による。ただし、Vosges広場はこの基準で言えば黒になるが広場の構造が分るので黒にしていない。A～Yは表4の博物館に対応。道路は表5の番号に対応。
aはキリスト教会、bはユダヤ教会、c中学校、dはリセを示す。ベースとなる地図はパリ市都市整備局による1:5,000土地利用図、1989を用いた。

のHotel Carnavalet（1548年建設）であり、1866年からパリ市の歴史博物館として公開されている。最も新しい指定は1999年である。

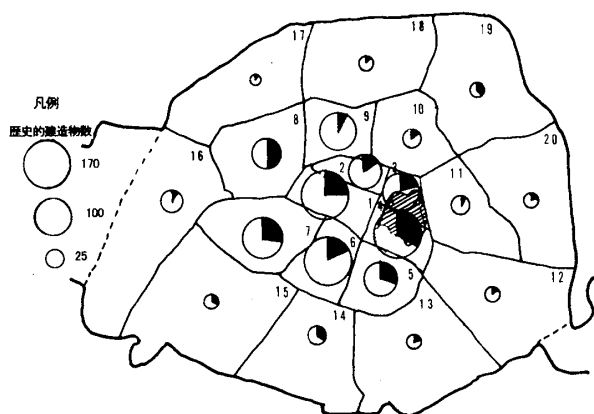


図1 パリ市の区別歴史的建造物の分布

資料：鳥海（2004）p.277 歴史的モニュメントの数値を用いて図化した。

注：斜線部分がマレ地区、黒が指定、白が登録。数字は区。

1969年の最初の保全計画では域内の建物を5つに分類した（Faure 1997）。

- 1 歴史的建造物として指定・登録された保存する186の建物。
- 2 建築的または景観的に価値のある建物及びその付属物1,200を保存する。これらの大部分は19世紀以前の建築物である。
- 3 改修工事の際に（伝統的な形態が損なわれているために、とくに中庭を復活するために）取り壊しが必要な建物。
- 4 工業生産や商業活動が行われていない場合、取り壊しを行うべき建物。
- 5 改修や建て直しの価値のない建物。

その後の保全・改修の動きは次章の事例に見られるように進められている。

建築物の保全と改修に関する基準は建物の外側、すなわちファサード（建物正面の飾り）、外装、バルコニー、軒蛇腹、窓枠、紋章などの

表4 マレ地区の博物館

地図記号	博物館名	旧建物名・歴史的建造物	開設年	評価	GB	入場者数
A	M. d'Art et d'Histoire du Judaïsme	H. St. Aignan	1997		2	2
B	M. Carnavalet	H. Calnavalet	1866	3	3	2
C	M. de la Chasse et de la Nature	H. Guénégaud des Brosses	1961	2	2	
D	M. de l'Histoire de France/Archives Nationales	H. Rohan et Soubise	1867	3	2	1
E	M. Cognac-Jay	H. Donon	1992	3	1	1
F	Institut Tessin-Centre Centre Suedois	H. Marle		1		1
G	M. Picasso	H. Salé	1985	3	2	3
H	M. de la Poupée			3		1
J	Archives de la Fondation Erik-Satie			1		
L	M. de la Serrure Bricart	H. Liberal Bruant		2	1	1
M	Collection De l'Association Sauvegarde et Mise en Valeur du Paris	Maison d'Ourscamp	1963	2		
N	Les Compagnons du Devoir			1		
P	Bibliothèque Musée Forney	H. Sens	1961	1	0	
R	Collection de la Bibliothèque Historique	H. Lamoignon	1968	2	2	
S	Maison Européenne de la Photo	H. Hénault de Cantobre	1993	3	0	1
T	Maison de Victor Hugo	H. Arnaud	1903	2	1	1
U	Mémorial du Martyr Juif Inconnu	(inscrit)	1956	2	1	1
V	Collection du Restaurant Curieux			1		
W	M. du Thé, Magasin Freres			2		
Y	M. de la Curiosité et de la Magie			3		1
Z	Patrimoine photographie/Adm. Monuments Historiques	H. du Sully	1993		3	1

資料：Guide Renault des 8000 musées et collections en France 1996のリストをもとにいくつかの書物からのデータを加えた。

注：評価は上記資料、GBはギドブルーのランク、入場者数：1＝10万人以下、2＝10～50万人、3＝50万人以上 資料：Inventaire des équipements publique et privés à Parisによる。

飾り類について行うものである。一般には外観が重視され特に建物の正面が重視されている。門と扉、ノッカー、建物の装飾（怪人など、mascaron）、バルコニーの飾りなどに凝ったものが見られる。なかには塔のある建物もある。建物の様式、高さ、色調、素材（石）などの統一性、20世紀になってからの新設の建物が少ないことが特徴となっている。古い建物でも主要道路では1階部分に新しい店舗が増加し、その部分についてはモダンなデザインが見られる。フラン・ブルジョワ（47）（表5の道路番号、以下同じ）、サン・タントワン（117）通が中心であり、それに交差するパイエンヌ（92）、アルヒーブ（1）、パルク・ロワイヤル（88）、ペルル（95）、カトル・フィス（107）、フランソワ・ミロン（46）通などが景観的には統一性がとれて歴史的建造物に指定された建物が多い。ただし、歩行者専用空間はない。ここにはそれ以外にも見る価値が多い建物がある。全体的に重要な建物の分布は南部に多い。

図2に見るように、これだけ広い面積にまとまって多数の歴史的建造物が存在している地区はフランスの他の都市にもない。リヨンの場合も早くから指定されたがこれだけの空間規模は持っていない。日本における伝統的建造物保存群とは空間的な拡がり、立体的なボリュームとにおいて決定的に違っている。

3・3 博物館

パリ市には多数の博物館・美術館があるが、この地域の博物館についてはツーリズムの観点から見ると存在価値は高い。博物館として使用されている建物には旧貴族の大邸宅を転用したものが多くあり、伝統的な建物のつくりや内部の装飾を理解するとともに展示物の内容を楽しむこととの二重の意味がある。表4に示すように、21の広義の博物館が存在し、そのうち主要な博物館14が歴史的建造物に指定されている大邸宅を利用している。図2のアルファベットの記号が表4に対応する。Renaultの博物館リストによる評価において3星がついているものは

7、ガイドブックのギドブルーではそのうちの11に星印があり、無印の記載が2を加えると約半数が重要な観光対象となって紹介されている。年間入場者数が多いのはパリ市が運営するカルナヴァレ博物館（フランス革命期を含む16～19世紀のパリについての資料を中心に古代から）と国立ピカソ美術館である。とはいえ、数多くあるパリの博物館（144）の中にあっては、この地区の博物館はマイナーなものにしかないことも付け加えておくべきである。

ピカソ美術館はスペインのバルセロナにもあるが、ここが規模から見て充実している。これは旧サレ館をRoland Simounetの設計により、外部はそのままにして内部の居住空間を絵画と彫刻などの作品の展示空間に改修されて1985年に開かれたものである。1973年の彼の死後、初期から最晩年期に到る、全てのジャンルの作品が収集されている（相続税の物納により充実した、3,694点）。光の取入れかたと、立体的な導線と作品群との調和が良く取れていて気持ちの良い美術館となっている。

それ以外の博物館はかなり地味なものが多くて、鍵博物館、人形博物館（かつては自動演奏の楽器の博物館であった）、ユダヤの歴史と芸術館など、限られた人しか訪れていないようだ。ピカソ美術館を除くとそこに日本人ツーリストを見かけることは少ない。

パリ市が管理する博物館はカルナヴァレの他にはコニャック・ジュー美術館（個人の収集した18世紀の絵画と工芸品）とヴォージュ広場の南東角にあるヴィクトル・ユーゴー記念館がある。

4 マレの道路

最も古い道路は12世紀にさかのぼる。総計139本の道路があり、そのうち半数近くの60の道路に文化遺産に指定された歴史的建造物がある（図3）。総延長は30,899mに達し、1,000m以上の道路は4本で大きくは南北方向に走っていて、東西を通る道路は途中で名前が変わるのが南部にあるのみである。500m以上が6と

いうことで、平均延長は220.7mと比較的短いものが多い。また袋小路になっているものもある。道路幅は10m道路が基本である。この地区の外側を取り巻く幹線道路は幅員30mである。狭い道路が主体であるために、この地区に限るわけではないが、道路は原則的に一方通行であり、多くの場合やや広めの箇所に路上駐車スペースをとっている（表5のO印）。

道路の空間を立体的にヴォリュームとしてとらえる指標としてD/H比⁴⁾を取り上げた。これは全ての道路について、地番の1と2から始まる地点の写真を撮り、それを元に計算したものである（原則的に地番は南から北へ、東から西へとつけられている）。図3ではその場所に道路番号を入れた。道路の幅員に差があることから写っている範囲内の代表的な場所を選んだので、いささか恣意的ではある。結果としては古くからある一般道路の大半はD/H比が0.5の周辺に落ち着くので、古くから建物の高さのコントロールがなされてきたことが分る。ちなみに、芦原はD/H=0.5を中世都市、D/H=1をルネサンス時代の都市、D/H=2をバロック時代の都市としている。この論に従えば中世風の町並みが保存されていることになる。ことはそれほど単純ではないが、このような数値を持つ街並みがまとまって存在する場所は少なくともパリでは他にないと思われる。この数値が、1以上の道路は少ないとともに、0.2とか0.3になると自動車の通行は不可能になり、そのような通もいくつかは残っている。パリにおける1959年の都市計画プラン以前においては建物の高度規制はなかったが、道路幅に対しての建物の側壁高度は制限されていた（鳥海2004, P.33）とのことである。それゆえに、この数値がそろっているということが理解できる。

道路の状態では外周部の道路を除くと街路樹はほとんどない。車道と歩道の分離は歩道部分の幅のきわめて狭いのも含めて完全になされている。これらのことはパリ市全体にも共通している。道路の形態については縮尺1:500を縮小した1:1,000の地図を入手して計測した。

一つの道路のうちに道路幅に変化があるのは建物を改修した際にセットバックさせられて道幅を広げていることを示していて、ほとんどの道路に認められる。したがって拡張した部分の建物は比較的新しく、多くの場合あまり見るべきものではない。拡張した場合には10m以上が多い。狭い幅員のままの道路は5~7mがほとんどであるが、その数は17に過ぎない。他方10m以上の幅員を持つ道路でも21しかないということは、建物の新設、改築にともなって道路と建物の高さとのバランスをとっていたということになるのであろうか。道路の拡張記録と建物の建築年代との関係をどこかの地点で検証できると面白いと思う。

道路の魅力の一面を表現する、建物の連続性を示す指標として旧来部分と拡張部分との比率をとることも考えられるが、ここでは歴史的建造物が占める比率をとり上げた。これは道路の長さに対して、指定された建物の占める長さの割合を取ったものである。したがって、仮に道路の片側全部が指定された建物で占められていたら100%ということになる。道路の全長に対してマレ地区に占める部分が少ない道路の場合に大きめの数値になる。その比率が高く、指定された建物数と、19世紀以前の古い建物が多い道路が歩いて面白い道路ということになろう。古い建物が多い道路は42を数えるが、歴史的建造物に指定された建物が1つのみが半数の29に達していて、3つ以上ある道路は20に過ぎない。歴史的建造物に指定された以外の主として19世紀以前に立てられた古い建物としてはSMVPH（パリ歴史地区の保存と開発協会、1963年設立）による地図と建物の解説がなされている。表2のうちの「指定された建物」がある60の道路に含まれている建物は1,300ほどを数える⁶⁾。

このように道路単位で見るとかなり重要な建物の所在は分散的に見えるが、地区の南に多く分布する。東西にヴォージュ広場から続くフラン・ブルジョワ（47）を軸として、北のサン・ジル（122）、パルク・ロワイヤル（90）、ペル

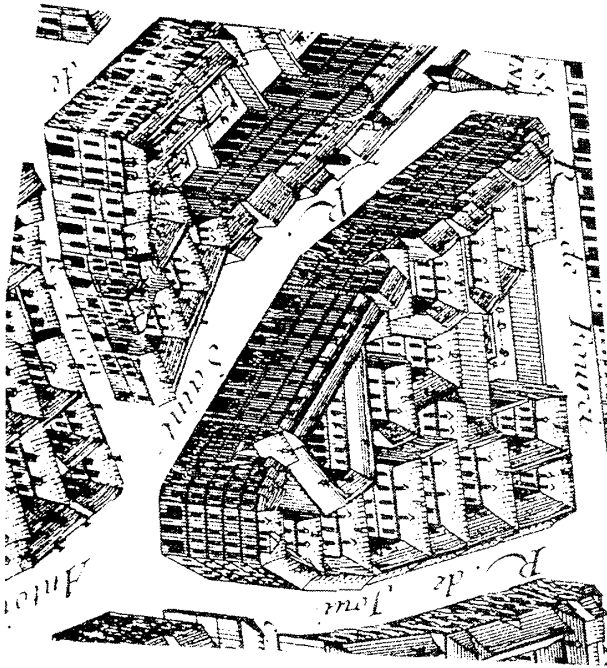
表5 マレの道路

番号	道路名	延長 m	幅 m	D/H	歩道	樹木	通行	駐車	舗装	歴史遺産数	旧い建物数	遺産建物長比	Turgot	起源 / 拡張
1	Archieves	900	8/15	0.7	O		1		A	10	31	25.9		1874/1890
2	Arquebusiers	147	6/8	0.5	O		1		A					1721
3	Aubriot	95	5	0.4	O		1		A	1	10	14.7		1867
4	Ave Maria	117	11/15	0.7	O		1	O	A					
5	Barbette	161	7/10	0.8	O		1	O	A	2	11	33.1	O	1563
6	Barres	134	5/15	0.4	O		X		P	2	8	32.8		1250
7	Bastille	83	13	1.0	O		1	O	A	1	1	43.4		1877
8	Béarn	170	14	1.2	O		2	O	A	1	3	9.4		1605/1805
9	Beaubourg	480	21	1.0	O		1	O	A					1851/1910
10	Beauce	136	3/10	0.2	△		1		P				O	1626・1630
11	Beaumarchais	1,051	36	1.8	O	O	2	O	A	2	7	2.7		1670
12	Beautreillis	132	5/11	0.5	O		1	O	A	1	15	18.9		1555
13	Béranger	84	11	1.0	O		1	O	A	1	6	47.6		1696
14	Impasse Berthaud	78	4/8	0.5	O		1		A					1577
15	Birague	101	12/14	0.8	O		1	O	A					1605
16	Blancs Manteaux	332	6/11	0.7	O		1	O	A	4	24	23.5	O	13C
17	Impass Boeuf	45	3	0.2			X		P					
18	Bourg Tibourg	170	6/10	0.4	O		1	O	P	1	21	2.4		medieval
19	Braque	112	8/10	0.6	O		1	O	A	2	8	38.4	O	13C 末
20	Bretagne	448	20	0.9	O		1	O	A				O	1608-09
21	Brosse	80	12/13	0.5	O				P					1838
22	Caffarelli	78	10	0.7	O		1	O	A					
23	Caron	93	8	0.5	O		1		A					1784
24	Castex	128	10	0.6	O		1	O	A					
25	Quai de Célestins	405	22/30	1.0	O	O	1	O	A	2	6	7.7		1365
26	Cerisaie	93	8/10	0.6	O		1	O	A					1544
27	Chapon	226	5/10	0.4	O		1		A	1	15	10.6	O	13C
28	Charlemagne	240	5/17	0.3	O		1		A	1	14	26.3		1844
29	Charles V	188	8/11	0.6	O		1	O	A	2	14	27.1		1544 /1864
30	Charot	314	8/12	0.5	O		1	O	A	5	61	56.7	O	1851
31	Cloche Perce	79	3/10	0.3	O		X		A					1250
32	Corderie	73	7	0.5	O	△	1	O	A					19C
33	Coutures Saint-Gervais	102	7	0.4	O		1	O	A					1618-20
34	Debelleye	343	7/10	0.6	O		1	O	A	1	18	10.8		1620
35	Dupuis	77	10	0.7	O		1	O	A					1809
36	Ecouffes	160	5/8	0.7	O		1	O	A	2	18	26.9		13C
37	Eginhard	46	3	?		n	X		P					1666-67
38	Elzévir	168	7/10	0.6	O		1	O	A	1	10	10.1		1867
39	Fauconnier	155	9/16	0.6	O		1		A				O	Med
40	Ferdinand Duval	136	7/12	0.6	O		1	O	A					18C/1854
41	Figuier	123	10/13	0.7	O		1	O	P	1	3	36.6		1605
42	Foin	103	7/10	0.5	O		1	O	A				O	1605
43	Forez	43	5	0.4	O		1		A					1626
44	Fourcy	96	8/11	0.8	O	△	1	O	A	1	7	31.3	O	1685
45	Franche Comté	64	12	0.8	O		1	O	A					
46	François Miron	395	11/15	0.5	O		1	O	P	6	21	21.3		/1865
47	Francs Bourgeois	723	8/16	0.5	O		1		A	7	39	53.7		/1851
48	Geoffroy l'Angevin	115	4/10	0.4	O		1		A					/1801
49	Geoffroy l'Asnier	166	7/11	0.6	O		1	O	P	3	3	25.9	O	18C
50	Grand Veneur	117	5/12		X		X		P					
51	Gravilliers	232	6/9	0.5	O		1	O	A	1	39	5.9	O	1250
52	Grenier sur l'Eau	30	6	0.5	O		X		P					1390
53	Impass Guéménée	78	10	0.6	O			O	A				O	
54	Guillemites	90	5/8	0.5	O		1	O	A					13C
55	Haudriettes	110	9/11	0.4	O		1	O	A	2	6	30.0		1287 以前
56	Henri IV	522	31	1.3	O	O	1	O	A					
57	Hesse	63	5/6				X	O	P					
58	Hospitalières Saint-Gervais	95	10/17	0.9	O		1	O	A	1	1	8.4		1817
59	Hotel de Saint-Paul	44	14	1.0	O	△	1	O	A					
60	Impass Hotel d'Argenson	35	3	0.2			X		P					
61	Quais de Hôtel de Ville	595	26		O	O								
62	Hôtel de Ville	446	5/17	-0.6	O	△	1	O	P	3	8	20.2		1835
63	Jacques Coeur	58	12	0.8	O		1	O	A					
64	Jardins Saint-Paul	176	5/10	0.8	O		1	O	A					18C
65	Jarente	98	7/10	0.6	O		1		A					1784
66	Jean Beausrie	131	6/10	0.5	O		1	O	A				O	14-15C
67	Impass Jean Beausrie	33	8											
68	Jouy	122	6/10	0.6	O		1	O	A	1	13	22.1	O	1297・1658
69	Jules Cousin	42	12	0.7	O		1	O	A					

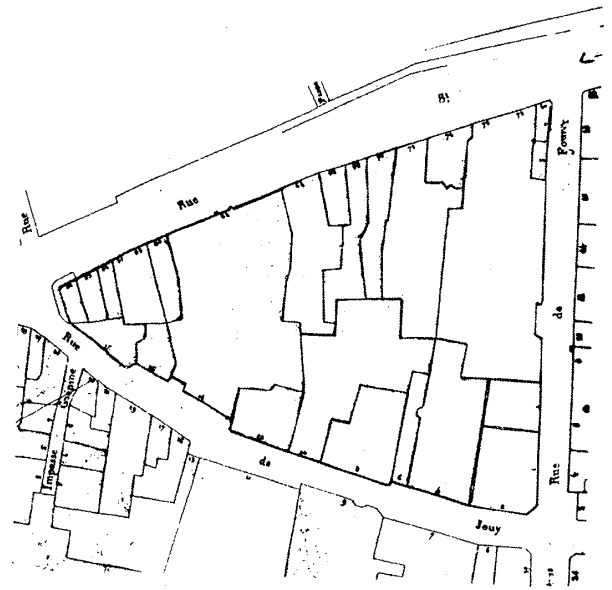
70	Allee des Justes de France	58	10	0.6	O	△	X	P										
71	Lesdiguières	86	6/10	0.6	O		1	O	A								16C	1544
72	Lions Saint-Paul	175	7/9	0.4	O		1	O	A	2	13	31.4						
73	Lobau	185	37	2.0	O	O	2	O	A	1	2	2.7						
74	Maire	172	5/10	0.6	O		1		A									
75	Malher	147	12	1.0	O		1	O	A	2	0	24.5					1851-52	
76	Marché des Blancs Manteaux	86	7	0.6	O		1	O	A								19C	
77	Mauvais Garçon	35	7/10	0.7	O		1	O	P								medieval	
78	Michel le Comte	200	6/8	0.6	O		1		A	4	17	39.0	O				13C	
79	Minimes	205	9/10	0.8	O		1	O	A	2	9	29.3	O					1605
80	Montmorency	216	6/11	0.5	O		1		A	1	10	31.9						
81	Moussy	137	7/12	0.5	O		1	O	A								13C 末	
82	Necker	46	5	0.4	O		1		A									1784
83	Neuve Saint-Pierre	148	13/15	0.9	O		1	O	A								1912-1913	
84	Nonnains d'Hyères	132	13	1.0	O		1	O	A								18C	
85	Normandie	82	7	0.5	O		1	O	A									
86	Oiseau	57	4/6	<0.5			X		P									
87	Ormesson	97	5/7	0.5	O		1		A									1784
88	Parc Royal	173	7/10	0.6	O		1		A	5	5	63.0	O					1545
89	Pas de la Mule	261	9/11	0.5	O		1		A									1606
90	Pastourelle	275	6/20	0.5	O		1	O	A	3	29	29.8	O					1292
91	Pavée	226	7/10	0.4	O		1		A	3	7	27.4	O					1250
92	Payenne	172	8/10	0.6	O		1	O	A	3	8	38.4	O					1545
93	Pecquay	85	4/8	0.4	O		1		A									1743
94	Perche	105	8/9	0.6	O		1		A									
95	Perle	128	21	0.8	O		1	O	A	1	5	13.3	O				1608-09	
96	Perrée	29	21	1.8	O	O	1	O	A									1540
97	Petit Musc	333	5/12	0.6	O		1		A	1	14	20.7						1809
98	Picardie	90	15	0.4	O		1		A								14C	
99	Pierre au Lard	63	3/10	0.3	O		1	O	P									
100	Plâtre	123	7/10	0.5	O		1	O	A								1274 以前	
101	Impass Poissonnerie	17	5	0.6			X	X	P	1	0						13 C 前半	
102	Poitou	234	10	0.6	O		1	O	A	1	19	3.8						
103	Pont aux Choux	165	10	0.6	O		1	O	A								1608-09	
104	Pont Louis-Philippe	220	13	0.8	O		1	O	A	1	4	6.4	O				Loius XIII	
105	Portefoin	142	7/10	0.7	O		1	O	A									1833
106	Prévot	104	3/5	0.2	O		X	X	A									1282
107	Quatre Fils	226	12/20	1.5	O	△	1	O	A	4	4	54.9	O					1891
108	Rambuteau	265	13	0.8	O		1	O	A									1290
109	Réaumur	95	21/31	1.0	O	△	1	O	A									1838
110	Renard	426		1.0	O		2	O	A								/1834	
111	Rivoli	740	22	0.8	O	△	2		A									1850
112	Roger Verlomme	100	7/20	0.7	O	△	1	O	P									1907
113	Roi de Sicile	416	7/13	0.6	O		1	O	A									1266
114	Roi Doré	57	8	0.5	O		1	O	A									
115	Rosiers	307	5/11	0.7	O		1	O	A	1	19	10.7	O				1619-20	
116	Sainte Anastase	110	7	0.4	O		1	O	A									1233
117	Saint-Antoine	668	20/36	1.2	O	△	2	O	A	5	88	18.9	O					1620
118	Saint-Claude	189	6/10	0.4	O		1	O	A									1865
119	Impasse Saint-Claude	46	6/10	0.6	O				A									1673
120	Sainte-Croix de la Bretonnerie	318	7/12	0.5	O		1		A	1	36	6.6					17C	
121	Sq. St.Croix de la Bretonnerie	60	7	0.5	O		1		A									1230
122	Saint-Gilles	244	8/10	0.5	O		1		A	2	10	16.8						1640
123	Saint-Merri	80	7/10	0.4	O		1		A	3	7	65.0					13C	
124	Saint-Paul	286	8/17	?	O		1		A	1	35	4.2						
125	passage Saint-Paul	60	4	?			X		P								16C	
126	Saintonage	222	8/9	0.5	O		1	O	A	1	31	2.3	O					1626
127	Sévigné	378	8/10	0.9	O		1		A	5	27	52.4						
128	Simon le Franc	96	5/10	0.4	O		1		A								16C	
129	Ruelle Sourdis	135	3	0.2			X		P								13C	
130	Temple	1,450	6/20	0.5	O		1		A	8	85	12.9	O					1857
131	Thorigny	185	6/10	0.7	O		1	O	A	2	5	41.1					/1645	
132	Tiron	34	16	0.9	O		1	O	A									
133	Tournelles	563	10	0.6	O		1	O	A	4	38	15.8	O				13C	
134	Trésor	77	12	0.8	O	△	2		P									15C
135	Turenne	1,040	12/15	1.0	O		2		A	11	79	20.3						1882
136	Verrerie	310	7/12	0.5	O		1	O	A	1	26	2.3	O					1865
137	Vertus	150	4/10	0.4	△		X		P									1185
138	Vieille du Temple	1,043	6/14	0.7	O		1	O	A	12	67	31.4						
139	Villehardouin	158	7/10	1.0	O		1	O	A	1	14	7.6					12C	1865

資料：長さとはパリ市都市計画図 1 : 1,000 による。その他のデータは 2004 年の現地調査。

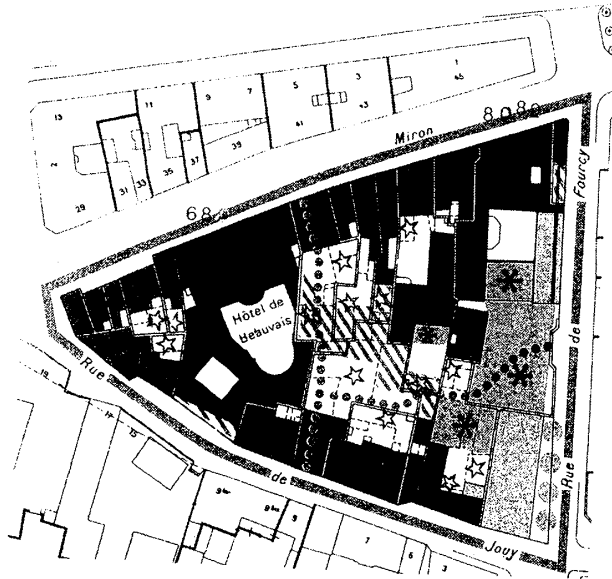
注：樹木：O = アリ △ = 一部、通行：1 = 一方通行 2 = 双方向 X = 通行不能、舗装：A = アスファルト P = 石



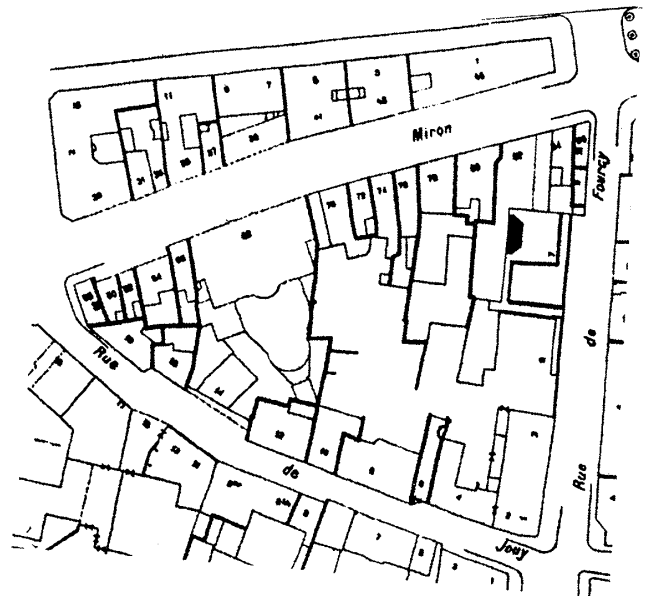
a 1739年



b 1833年



c 1976年



d 2002年

図3 Beauvais街区の変遷 (1 : 2000)

a 1739年 Thurgotの地図

b 1833年 1 : 1,000の地図による

c 1976年 Paris Projet 23/24 p.244 PSMVの図から

d 2002年 1 : 1,000のパリ市の都市計画図から

ル (95), カトル・フィス (107), オードゥリエット (55), ミシェル・コント (78) を結ぶ通り, 南はサン・タントワン (117), フランソワ・ミロン (46) を通る東西の道路に挟まれた範囲に指定・登録された建物が多く含まれている。最も比率が高いのはパルク・ロワイヤル (90) で 63% に達している。

緑地としてはヴォージュ広場を除くと自由に入れる公園は 3 と少なく, 北部の区域外に隣接するタンブル公園が重要な役割を果たしている。

5 古地図に見るパリからの景観の復元

マレ地区全域について現段階では考察するまでには至らないが, 地図に描かれた時代について一つの街区 (ここでは *ilot* と呼んでいる), ボーヴェについて検討する。現在の大縮尺の地図をみてもマレ地区全体としては比較的变化が少なく, 古くからの街並みがそのまま続いている部分が多いとみなせる。しかし詳細に見ればかなりの変化を読み取ることが出来る。

この場所はセーヌ川に近く, 北はフランソワ・ミロン通 (図 2 の地図番号 46), 東はフルシー通 (44), 南はジュイ通 (68) に囲まれた三角形の狭い街区で, メトロ 1 号線のサン・ポール駅に近い。フランソワ・ミロン通は商店街となっている。

歴史的建造物の指定 (1966 年) に当たるボーヴェ館 (フランソワ・ミロンの 68 番地) は 1200 年に修道院として建てられ, 1655 年に現在見られるような建物になる。若い頃のルイ 14 世が住み, バイエルンの大使が住んでいたし, またかつてモーツァルトが滞在していたとして有名な建物である。美しい曲線をした中庭を持つ。1943 年市の所有となる。長期わたり修復工事が継続されてきたが, 2004 年夏には工事が終わってはいたが, まだ一般には内部は公開されていなかった。

図 3 に示すように 1739, 1833, 1976, 2000 年の 4 時期の地図を使う。スペースの都合上縮小して 1 : 2,000 に縮尺を統一した。

a に示したのがもっとも詳細な絵図として有名な 1739 年の *Turgot* 図である。これはパリ市長 (1729–41 年) であった *Turgot* が *Luis Bretez* に命じて作成させたものである。鳥瞰図的に全ての建物と道路が描かれているといわれている。ルイ 15 世末期の状況を示している。ボーヴェ館が大きく描かれている。b に示した図と比較すると街路に面した建物については南側のジュイ通を除くと区画数が一致するし, その部分も大きな区画単位で見ると数が合う。

b は 1833 年の地図は地籍図であり, 建物についての記載はなくて土地の区画がかかれており, 原版の縮尺は 1 : 1,000 である。パリ市文書館所蔵のもので, 現在知る限りこの資料館が保存する最も古い詳細な測量図である。ジュイ通のセットバックがすでに行われて現状と同じである。ボーヴェ館の改修によって 6 m 道路から 10 m 道路への移行が見られる。

c の 1976 年の図は *Paris Project* 誌 23・24 号 p.244 (1983 年) に掲載された保存計画図による。多色刷りを黒一色にしたので分りにくいだが, 先に説明した建物の 5 分類に従って表示してある。最も黒が強く出ているのが歴史的建造物で, ボーヴェ館のほかに北東部の地番でいうと 80, 82 が登録 (18 世紀の建築で, 現在ヨーロッパ写真館となっている) に当たる。大部分を占める黒い建物は 19 世紀以前の古い建物として保存・修復する価値があるとされている。ということはこの街区の大部分 (フルシー通側の灰色の 2 棟を除いて) がそれに当たる。中庭 (建物に囲まれた白地) に新たに増築した部分を撤去して古い状態に戻すというのが, この街区の再生計画であり, ☆印をつけて取り壊す部分を示した。現状はその方向に進んで空地となって緑地 (*記号を挿入) 化する方向に進んできたことを示している。フルシー通は北の一角を除いて 8 m から 11 m にセットバックされている。フランソワ・ミロン通では西よりの地番 60, 62, 64, 3 つの建物が新しくなってセットバックされているようである。

d の 2000 年版の図はパリ市が作成した都市計

画図で、1:500を集成した1:1,000を用いたものである。敷地の区画・地番と建物・中庭が分る。cに比べてオープンスペースが拡大していることが分かる。

こうして何気なく歩けば古い町並みが保存されているように見えるが、かなりの変更が加えられていることが分る。その他の街区についても同様な展開がなされてきた。今後、変化の大きかった街区と少なかった街区を分類し、現在の用途と合わせて考えてみると面白い。Turgot図をはじめ多くの古地図が存在するパリであるから、地図を通してこの地域の変遷を整理することが課題として残っている。

本研究は2002～2004年度にわたる科学研究費補助金、研究課題「グローバリゼーションとEU統合への文化的対応に関するEU主要都市比較研究」研究代表者山本健児（法政大学経済学部教授）に基づく研究の一部である。

注

- 1) アメリカ、イギリス、ドイツなどに比べるとフランスの事情についての紹介は少ない。最近では、和田・鳥海（2000）、鳥海（2004）、西村（2004）などで取り上げられるようになってきた。
- 2) J-P. Bady: Les monuments historiques en France. P.20-23による。これらの数値は文献によってかなり異なるのでどれが正確なのか判断しにくい。同じ建物において対象物の違いにより指定と登録が別々に行われる場合がかなりあり、その数え方によるものかもしれない。
- 3) この指定及び登録の訳語は鳥海（2004）が用いたものを援用した。
- 4) ションパール・ド・ローヴェの説（1982）。
- 5) 道路幅を建物の高さで除した数値。芦原義信が提唱した。「街並みの美学」による。
- 6) この資料はそれ以外の全ての道路と狭義の指定されたマレ地区よりも広い範囲を含んで扱っている。

文献・資料

- Le plan de sauvegarde et du mise en valeur du Marais.
Paris Projet. Paris-Rome no.23-24. 1983
- Le Marais et ses abords (1999) : Plan perspectif.
Sauvegarde et Mise en Valeur du Paris Historique
- de Andia, B. et A. Gady (1992) : La rue des Francs-Bourgeois au Marais. Délégation à l'Action Artistique de la Ville de Paris
- Anffray, M-F. (2001) : Le Marais la légende de pierres. Hervas
- Bady, J-P. (1998) : Les monuments historiques en France. Que sais-je? 2ed.
- Faure, J. (1997) : Le Marais. Organisation du cadre bâti. Harmattan
- Fierro, A. (1996) : Histoire et dictionnaire de Paris. Robert Laffont
- Gady, A. (2002) : Le Marais. Guide historique et architectural. Le Passage
- Guides Bleus, Paris (1999) Hachette
- Lavedan, P. (1993) : Nouvelle histoire de Paris. Histoire de l'urbanisme à Paris. Hachette (ピエール・ラヴダン, 土居義岳訳『パリ都市計画の歴史』2002 中央公論美術出版)
- Kjellberg, P. (1986) : Le nouveau guide de Marais. La bibliothèques des arts Paris
- Morley, A., G. Le Vasseur (1996) : Guide Renault des 8000 musées et collections en France. Le cherche midi éditeur
- Picon, A. J-P. Robert (1999) : Le dessus des cartes ; Un atlas parisien. Picard
- Pitt, L. (2004) : Promenades dans le Paris disparu ; Un voyage dans le temps au coeur de Paris historique. Parigramme
- 芦原義信 (1979) : 街並みの美学 岩波書店
- 鳥海基樹 (2004) : オーダー・メイドの街づくり—パリの保全的刷新型「界限プラン」 学芸出版
- P・H ションパール・ド・ローヴェ著, 佐々木斐夫訳 (1982) : パリの社会学 日本ブリタニカ
- アレックス・カーメル著, 中川美和子訳 (2000) : マレの街かど—パリ歴史散歩 白水社
- ジャック・サロワ著, 波多野宏之/永尾伸之訳

(2003) :フランスの美術館・博物館 文庫クセ
ジュ 867 百水社
西村幸夫 (2004) :都市保存計画—歴史・文化・自
然を活かしたまちづくり 東京大学出版会
元岡展久 (1998) :パリ広場散策—美しき首都の成
り立ち 丸善
和田幸信・鳥海基樹 (2000) :フランス歴史的環境

の保全と景観計画, 西村幸男+町並み研究会『都
市の風景計画—欧米の景観コントロール手法と
実際』学芸出版 p.39-67
パリ地図集成1180-1981完全版 (1998) 科学書院
191種類
高橋正 (1994) :パリ都市地図集成 1530-1808
柏書房